

営農情報

令和3年7月21日

第18号

高温時における水稻の管理について

現在、管内の移植水稻は多くの圃場で出穂揃いとなっており、生育の早い圃場では開花が始まっています。本年は記録的な高温となる日が連日続いており、過去に例がないような干ばつとなっています。出穂後、登熟の初中期が高温に経過すると、乳白・腹白粒の発生により品質が低下することがありますので、下記の事項に留意し管理を行いましょう。

○高温時の留意事項

- ①出穂後、米粒は急速に生長するので、出穂が始まったらただちに入水（ヒタヒタ水）して米粒の生長を促進する。
- ②排水良好田は、出穂後25日頃まで間断灌漑とする。排水不良田は、出穂期に落水するが、田面にひび割れが入る前に走水をする。
- ③登熟初中期に、日中の気温29℃以上、夜温23℃以上が5日以上続くと予想される場合は、灌漑水の掛け流しを行い、地温や稲周辺の気温を下げる。
- ④**入水や灌漑水の掛け流しは、地域の灌漑水の供給状況を勘案のうえ実施可否を判断してください。**

J A みねのぶ 営農販売課

TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803